

年間目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な態度を養う。具体的な言語活動は以下の通り。			教科書・副教材等
	ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。			1 教科書「PROMINENCE English Communication I」啓林館 2 その他 「総合英語」「英和辞典」「英単語帳」
期	月	学習内容 (予定時数)	学習目標 (短期目標)	学習のポイント・観点別評価
1 学 期	4	高校での学習の仕方 (1)	・高校での学習の仕方を理解する。	・予習・復習の重要性を理解できたか。 ・辞書の活用法が理解できたか。 ・フレーズリーディングができたか。 【関心・態度】
	5	Lesson 1 We Are Together (6)	・私たちが生きる上ですべての土台となる地球。グローバルな観点から地球における共生について考える。 ・地球環境について説明したり、意見を述べたりする。	・英語で意見交換をすることができたか。 【表現の能力】
		Lesson 2 Animal Emotions (6)	・ペットや野生動物など、動物と人間のかかわりをきっかけに動物の感情について考える。 ・動物の感情について説明したり、ある意見に対して賛成したり反対しながら自分の意見を発表する。	・関心を持って意欲的に学習するとともに、文化による相違点や共通点について積極的に考察できたか。 ・英語で意見交換をすることができたか。 【表現の能力】
		※問題演習 (8)		○ 連休課題提出 ○ 1学期中間考査
6	Lesson 3 One Ocean, One People (6)	・ポリネシアの伝統航海術に関するインタビューを通して、異文化理解を深める。 ・ポリネシアの伝統航海術に関して説明し、人物について意見を述べる。	・5W1Hを把握しながら読解ができたか。 【理解の能力】 ・本文の内容を、キーワードや写真を使って再話できたか。 【表現の能力】	
7	Lesson 4 Landfill Harmonic (6)	・ごみをリサイクルして作った楽器を演奏するパラグアイの「リサイクル・オーケストラ」の活動について知り、環境問題や現代社会について考える。 ・インターネットを使って、ごみ問題の深刻な地域について調べ、説明し、発表する。	・各課の本文全体の内容を正しく把握できたか。 ・教科書の題材に関心を持ち、その状況について積極的に理解しようとしたか。 【関心・態度】	
		※問題演習 (10)		○ 1学期末考査
夏休み		夏季休業中課題	・既習内容の定着度の確認	・得意・不得意分野を把握できたか。
2 学 期	8	Lesson 5 Katsushika Hokusai, a Japanese Genius (6)	・葛飾北斎の人物像や、作品が西洋美術に与えた影響について知り、日本文化について考える。 ・日本の伝統芸術に対して自分が感じていることを英語で表現する。	○ 夏季休業中課題提出 ・日本の伝統芸能が海外からどのような評価を得ているのかについての確に理解できたか。 【知識・理解】 ・日本のものを英語で説明することができたか。 【表現の能力】
	9			
	月	学習内容 (予定時数)	学習目標 (短期目標)	学習のポイント

2 学 期	10	Lesson 6 A Strange but True Superhero ※問題演習	(6) (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・やなせたかしと「アンパンマン」。「アンパンマン」が誕生した背景と、やなせたかしが作品に込めた思いについて知り、真の正義について考える。 ・主人公の語るいくつかの教訓を、わかりやすい英語で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やなせたかしの思いや主張について理解できたか。【理解の能力】 ・教科書の表現を有効に活用しながら英語で説明できたか。【表現の能力】 <p>○ 2学期中間考査</p>
	11 12	Lesson 7 What's an Ig? Lesson 8 The State-of-the-Art Origami Engineering ※問題演習	(6) (6) (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーベル賞のアメリカ版パロディであるイグ・ノーベル賞の創設の経緯や特徴、日本人受賞者のエピソードなどを知り、科学とユーモアについて考える。 ・イグ・ノーベル賞のコンセプトと、その具体例について英語で要約または再話する。 ・日本の伝統文化が宇宙工学に应用された視点や着想と科学的探究の醍醐味を味わう。 ・題材から得た発見や感動を、英語で表現する。先端科学技術に应用できそうな日本の伝統文化について、自分なりの考えを英語でまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフ間の関係を考えて読解ができたか。【理解の能力】 ・どのような発明にイグ・ノーベル賞を与えたいか考えて書き、発表することができたか。【表現の能力】 ・日本の伝統文化が科学技術にどう应用されているのかについての正しい知識を持ち、理解できたか。【理解の能力】 ・ミウラ折りの折り方の説明をクラスで発表することができたか。【表現の能力】 <p>○ 2学期末考査</p>
冬休み	冬季休業中課題		・既習内容の定着度の確認	・得意・不得意分野を把握できたか。	
3 学 期	1	Lesson 9 Father of the Paralympic Games	(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック大会の起源と医師ルートヴィヒ・グットマンの功績を知り、スポーツと社会参画について考える。 	○ 冬季休業中課題提出
	2			<ul style="list-style-type: none"> ・当時の障がい者が置かれた状況や、彼らの社会復帰のために尽くした医師ルートヴィヒ・グットマンの信念を、英語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック創設までの経緯とルートヴィヒ・グットマンの功績を理解できたか。【知識・理解】 ・ジェーン・ジェイコブズの活動の意義と、信念と勇気を持ち仲間とともに自分の愛するコミュニティのために行動することの大切さを理解できたか。【理解の能力】
	3	Lesson 10 Save Washington Square Park ※問題演習	(6) (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワシントンスクエアパークの保存のために住民運動を率いたジェーン・ジェイコブズの活動について知り、コミュニティ形成と社会参画について考える。 	○ 学年末考査
価 の 方 法	1・2学期の評価は、中間考査と期末考査の得点に平常の学習活動の評価(課題・授業態度・小テスト等)を加味して、100点満点で算出する。学年末の成績は、1・2・3学期の成績をもとにして、1年間の総合成績として100点法で算出する。				

○ コミュニケーション英語 I の学習法

1 基本的な心構え

英語学習における授業の位置付けが、中高では基本的に異なっている。中学校では、授業の中で先生が繰り返し丁寧に復習を行ってくれるため、授業についていくこと自体は、それほど難しくなかったかもしれない。他方、高校での授業は、その内容がより高度で、その分量が多く、進度も格段に速いので、授業時間内だけで内容を理解し、知識・技能として習得し、定着させることは到底困難である。したがって、本校では予習を前提に授業を組み立てている。「わからないことが何なのか、授業に先立ってわかっていること」こそが、「効率的学習」の成立要件であることを肝に銘じるべきである。よって、必ず予習を徹底した上で授業に臨んでほしい。

母国語に加えて他国の言葉を第2言語として習得するには、多くの根気と努力と時間を要する。「継続は力なり」および「習うより慣れよ」が鉄則である。日々学習に励み、1・2年生の間に徹底して基礎を築いておこう。そうでなければ、基礎力が身に付かないまま3年次にどれほど問題演習を重ねても、思うように学力は

伸びない。継続のコツは、何よりもまず「学習プロセスそのものを楽しむ」ことである。「楽しいこと」は続けやすいからである。

さらに、情報通信技術の発達により、英語は現在、国際語としての役割をますます増しており、実社会に出たときには強力な道具にもなる。英語を習得することにより、インターネット上の膨大な情報に自由にアクセスしたり、多くの国々の人々と直接交流したり、海外留学や海外旅行を思いっきり楽しんだり、さらには国際的な舞台で持てる能力を存分に発揮して「地球共同体」の持続に貢献する等、多種多様な可能性が開かれている。皆さんの人生にとって、高校英語の習得が大いなる飛躍の礎の一つとなることを切に希望している。

2 学習の方法

(1) 予習について

ア 次の授業で進む予定より多い範囲を音読し、段落ごとにおおまかな内容をつかむ。予習の段階で内容が分からないところを明確にするために、印を付けておく。

イ 分からない語句の意味を辞書で調べる。市販の教科書準拠の単語帳では時間は節約できても実力は付かない。その際、辞書の最初にある意味に飛びつくのではなく、文の構造から品詞を特定し、用例を参考にしながら、文章全体の文脈から最もふさわしい意味はどれかを考える。この「考える」という行為こそが実力の素地を作る。その他、発音やアクセントの位置、派生語も同時に確認する。辞書の価値はその使い方方で決まる。そしてその使い方が君の実力を決めるといっても過言ではない。

ウ 授業用ノートを作成する。書き込みができるよう、ゆとりをたっぷりと持たせる。

(2) 授業について

ア 予習の時に分からなかった所に集中して授業を聞く。予習してきた内容の誤りを正し、それでも疑問が残る時は、授業中や授業後に遠慮なく先生に質問しよう。疑問が君を育てる。

イ コミュニケーション英語 I では、単語の発音練習、本文の音読、英問英答、日本語や英語による内容把握、ディクテーション、速読や精読、英文の暗唱、文法事項の説明、意見交換、英作文等、様々な活動を行う。積極的に学習活動に取り組み、クラスの雰囲気盛り上げよう。一斉読みやペアリーディングの声がよく出るクラス集団ほど個々の生徒の成績も伸びていく傾向がある。集団が人を育てる。

ウ 高校の英語の授業に辞書は必需品である。手に馴染み愛着がわくほど手元に置いておこう。

(3) 復習について

ア 習った英文を語順のまま理解できるまで何度も音読する。CD等を利用して、同じ速さ・ポーズ・抑揚・強弱のリズムで読めるように練習しよう。リスニングとスピーキングの練習にもなる。「言葉」は「記号・符丁」と違って、深く身体性を帯びていることを忘れないように。

イ 習った単語・熟語は、声に出し意味をイメージしながら実際に何度も手で書いて覚える。

ウ 文法事項については「総合英語」を確認し、確実に内容を理解・整理しておくこと。

エ 各レッスンには様々なアクティビティが用意されている。積極的に自己表現活動に取り組むこと。

(4) その他

大学入試共通テストは高校における基礎学力の到達度を見るのが目的であり、主に高校2年程度までの基本的な知識と技能が問われる。教科書・授業を中心に「なぜそうなるのか」を納得できるまで論理的に考えながら根気強く反復練習してきた者ならば、9割以上得点できるはずである。

国公立大学の個別試験や私立大学の入試では、問題量の増加、内容の高度化・抽象化、設問形式の多様化に伴い、長文読解問題、要約問題、自由英作文問題等、速読力と精読力に裏打ちされた概要把握力と論理的思考力、日本語および英語による的確な表現力（発信力）、一言で言えば「実践的なコミュニケーション能力」を査定する問題が確実に増加している。単なる丸暗記中心の相互関連性のない知識だけでは、こうした問題にはまったく太刀打ちできない。入試に対応できる真の底力を付けるには、少なくとも2年の終わりまでに一通り高校英語の基礎を完成させ、その後実践的な演習を積み重ねる必要がある。よって、毎日の授業、小テストと定期考査や課題テスト、週末課題・長期休暇課題等に真摯に取り組むことこそが、そのまま大学入試対策となる。

— "Let's enjoy the process of learning English together!" —